

40 青年期発達障害者の地域生活移行への就労支援に関するモデル事業の報告

－個別支援計画とその支援内容－

自立支援局 水村慎也・四ノ宮美恵子・遠藤明宏・植木朋子・若林耕司・寺本和正
加藤禎彦・近藤和弘・小林菜摘・高橋陽子・青柳政治・柴崎今日子
病院 深津玲子・車谷洋

1. はじめに

本発表では、受け入れケースの個別支援計画とその支援の実際について概要報告を行い、障害者支援施設における発達障害者への支援のあり方と課題について検討を行う。

2. 支援概要

(1) 支援期間

訓練実施期間は、3月から22月までと大きなばらつきがみられた。また、就労を目標に訓練を実施した3名の平均訓練実施期間は、16.7月であった。

(2) アセスメントと支援課題

アセスメントの方法としては、本人、およびご家族との面接のほか、「日常生活活動評価表（国立障害者リハビリテーションセンター）」、「就労レディネス・チェックリスト障害者用（独立行政法人高齢・障害者支援機構）」、「就労移行支援のためのチェックリスト（同左）」を用いた。職業評価については、職業指導員による既存の作業評価と、モデル事業開始後に作業遂行上の課題を把握するために作成したチェックリスト（実際の求人票に記載された仕事内容をもとに設定した作業場面において評定）を用いた。アセスメントの結果、支援課題としては①生活リズム、②健康管理・身辺管理、③コミュニケーション、④パニック・こだわり、⑤家族支援があげられた。

(3) 個別支援計画書の手交

アセスメント結果に基づき、特性の把握と課題整理を行い、個別支援計画書を作成し、手交した（図1）。併せて、本人が理解しやすいように時間軸を入れてカラー刷りにするなどの図式化を行った資料も添付した（図2）。

3. 支援内容

(1) 自立訓練（金銭管理、スケジュール管理等）(2) 職業訓練①技能習得訓練（事務、機械製図、組立、クリーニング）②職場体験訓練（郵便配達、事務補助、清掃、模擬店出店等）③センター外職場実習(3) 作業療法(4) リハ体育(5) 就労マッチング支援(6) 社会的支援

4. 考察（モデル事業から得られた知見）

課題の多様性を踏まえ、自立訓練、就労移行支援両面にわたる包括的プログラムの準備が必要であった。また、自立訓練から就労移行支援へという一方向的な支援の流れにはなじみにくいため、同時並行またはスパイラルに支援を展開できる仕組みが必要であると考えられた。生活体験の乏しさ、個人内の能力のばらつきが大きいことなど、訓練を通して問題解決方略を学習しても、その般化が極めて困難であるため、技能習得を前提にした訓練体系では効果が得られにくいことが示唆された。そこで、技能習得型の訓練体系から、多様な体験中心の訓練体系へのパラダイムシフトが有効であると考えられた。

個別支援計画書				
				作成年月日:平成21年10月5日
利用者氏名 ○○ ○○ 様				
1 利用者及び家族等の要望				
(1) 本人 人間関係でストレスを感じることが少なく、長く働ける場所で働きたい。				
(2) 家族 本人の適性に合う、本人を理解してくれる職場環境、勤務内容で仕事についてほしい。				
(3) 備考				
2 支援目標と課題				
(1) 長期 (内容及び期間等)		就労 期間: 9ヶ月間		
(2) 短期 (内容及び期間等)		自己の課題に気づき、対処法を学ぶ。職業適性を検索する。 期間: 3ヶ月間		
3 具体的な支援計画等				
目標実現のための 支援項目・課題	支援内容 (内容・留意点等)	支援体制 (頻度・時間等)	担当職員	予定期間
生活リズムの安定	予定に合わせて就寝、起床時間を調整し、日中安定して作業に取り組めるよう支援します。	毎朝	生活支援員 日常生活訓練担当	H21年12月 まで
対人スキルの向上	相手や場面に応じた身だしなみや行動(敬語の使い方、声の大きさなどを含む)を調節できるよう支援します。	週1時間	作業療法士	修了まで
スケジュール管理	スケジュール帳を利用し、複雑な予定の整理や月単位のスケジュール管理ができるよう支援します。	週1時間	日常生活訓練担当	修了まで
金銭管理	単身生活を視野に入れ、金銭管理のための諸能力(金銭感覚、管理法)を身に付けられるよう支援します。			
職業選択方法の理解	就職面接会参加、企業実習などの経験を通し、様々な職種や雇用形態について知ることを目指します。	週1時間	生活支援員 就労支援員	修了まで
職業適性の検索	事務系、作業系の様々な訓練作業を体験しながら、継続して取り組める作業を見つけられるよう支援します。	3ヶ月間	職業指導員	H21年12月 まで
職業訓練	継続できる作業内容に基づき、就職に向け職業訓練を実施します。	6ヶ月間	職業指導員	H22年1月 以降
就職活動	履歴書作成や就職面接の受け方について支援をします。求職登録及び求人情報をもとに就職活動の支援をします。	求職登録後	就労支援員	H22年3月 以降
ネットワーク作り	就職に向けた支援と就職後の就労継続のため関係する機関のネットワークを作ります。	関係機関と 日程調整の上、適宜	就労支援員	修了まで
説明日: 利用者氏名: 印				
説明者氏名: 印				

図 1. 個別支援計画書

○○○○さんの個別支援計画スケジュール

支援項目・課題	生活リズムを整える・職業適性を探る			職業訓練に取り組む → 就職活動をする					
	H21.10月	11月	12月	H22.1月	2月	3月	4月	5月	
生活面	就寝・起床時間の安定	部屋も眠くならずに活動するため、アルバイトの時間に合わせて寝る時間、起きる時間をコントロールできるようにします。							
	人との関係づくりの学習	相手や場面に応じた行動(敬語の使い方、声の大きさの調整など)を運べるようにします。							
	スケジュール帳の活用	予定(アルバイト、訓練、就職活動関連、週末)や約束事を忘れないようにするために、スケジュール帳を無理なく使う習慣を身に付けます。							
	お金の自己管理	将来一人暮らしをする時のために、給料の使い道、貯金の仕方などについて考え、自己管理できるようにします。							
職業面	仕事内容の幅について知る	就職面接会参加、企業実習などの経験を通して、働き方の様々な形態について知ります。							
	自分に合う仕事を探る	事務訓練 個別パートから 集団の部屋へ <環境の変化>	軽作業訓練 集団の中で任せられた 作業を通して仕事 の心構えなどを 知る	クリーニング 訓練 仲間と協力しながら の体を使った作 業を体験する					
	仕事の訓練	各訓練、環境に慣らしながらフルタイムで参加します。			職業訓練				
	就職活動	(手帳の申請)			求職登録	就職準備	就職活動		
ネットワーク作り	就職や生活面をサポートする関係機関の人と知り合い、仕事探しや仕事に就いた後のアドバイスをもらいます。								

図 2. 個別支援計画書 (時間軸版)